

安全の手引き

～海外で安全に暮らすために～

在デトロイト日本国総領事館
Consulate General of Japan in Detroit
400 Renaissance Center, Suite 1600
Detroit, MI 48243
TEL: 313-567-0120; FAX: 313-567-0274
HP: http://www.detroit.us.emb-japan.go.jp/index_j.htm

2015年2月1日改訂
(2006年1月1日初版)

目 次

○ はじめに	P. 1
○ 第 1 章	安全のための基本知識	P. 2
	日本とは異なる海外事情	
	防犯対策の基本的な心構え	
	犯罪被害に遭ってしまった場合	
	※総領事館からのお知らせ（その①：「危険情報」をご存じですか？）	
○ 第 2 章	暮らしのための防犯対策	P. 3
	最近の治安情勢	P. 3
	住居の防犯対策	P. 3
	外出時の防犯対策	P. 4
	自動車に関する防犯対策と運転における注意事項	P. 4
	現地の風習・文化や法律の違いにご注意ください	P. 6
○ 第 3 章	緊急事態が発生したときの対処方法	P. 7
	緊急事態に対する基本的な考え方	
	情報収集の手段	
	在留届の提出をお願いします	
	「オンライン安否照会システム」について	P. 8
	※総領事館からのお知らせ（その②：生活・安全に関するご相談・問い合わせ先）	
○ 資料 1	： ミシガン州の治安情勢	P. 9
○ 資料 2	： オハイオ州の治安情勢	P. 11
○ 資料 3	： 緊急事態への準備	P. 13

はじめに

近年、海外に渡航する日本人は年間約 1,750 万人に上り、さらには海外に在留する日本人は約 126 万人となり、過去最多を更新しています。海外に渡航・滞在する日本人の増加に伴い、残念ながら現地において事件・事故や災害などに遭遇する日本人の数も増加しています。

銃が身近にあるアメリカでは、犯罪に銃が用いられるケースが多く見られます。その他にも 2001 年 9 月 11 日に発生した米国同時多発テロ事件や 2013 年 4 月のボストンマラソン爆弾テロ事件は、アメリカが国内外のテロリストからの標的であることを再認識させ、2005 年 8 月のハリケーン・カトリーナや、毎年の様に発生するトルネードや冬季の大寒波は、米国で生活する上で自然災害に対する準備の重要性を教訓とさせられるものでした。

海外生活を快適に過ごすには、まずは自らの安全をしっかりと確保することが大事です。この「安全の手引き」は、ミシガン州・オハイオ州の在留邦人並びに当地を訪れる日本人の皆様が現地において安全に生活するための基礎的な情報を提供することを目的に作成したものです。皆様の暮らしにおける防犯対策の一助になれば幸いです。

第1章 安全のための基本知識

日本とは異なる海外事情

アメリカは日本と異なり、銃の所持が法律で許可されています。従って銃犯罪に巻き込まれる危険が十分考えられます。他にも異なる風習・文化や法律から日本では予想もしないトラブルが待ち構えていることを認識しなければなりません。最新の社会情勢の知識をあらかじめ持ち、「自分（家族）の身は自分で守る」といった意識を持って防犯対策を講じることが大切です。

2. 防犯対策の基本的な心構え

- ◇十分な情報収集～現地の最新の危険情報をニュース等で知る。
- ◇自分の身は自分で守る～自ら積極的に防犯意識を持つ。
- ◇最悪の事態を想定した準備～事件・事故・災害等に対応するため物心両面から準備。
- ◇現地社会にとけ込む～近所住民、地元コミュニティ、在留邦人と良好な関係を構築。
- ◇安全のための三原則
 - ①目立たない～場違いな服装、装飾品、高級車などを避ける。
 - ②行動を予知されない～パターン化した行動をしない（同じ道・同じ時間）。
 - ③用心を怠らない～生活に慣れ始めた頃が要注意。
- ◇精神衛生と体の健康の管理～生活環境や習慣が異なる海外の生活では精神面・肉体系の健康管理が重要です。

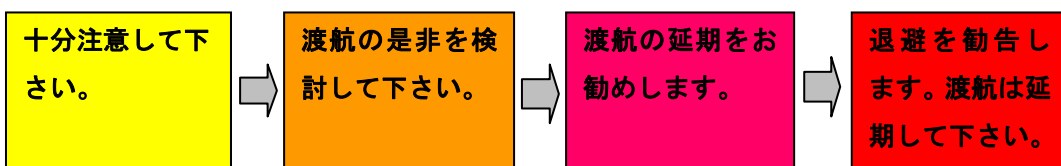
3. 犯罪被害に遭ってしまった場合

注意をしていますが、犯罪に巻き込まれてしまうこともあります。もしも犯罪被害に遭ってしまった場合は、「生命の安全」を第一に考え、犯人に無用に抵抗しない態度を示すことが必要です。なお、後に警察に被害届を出す時のために、犯行の状況（日時・場所、犯人の人相着衣、被害品など）をできるだけ記憶しておくことが大切です。

総領事館からのお知らせ（その①）

「危険情報」をご存じですか？

「危険情報」とは、外務省が渡航、滞在にあたって特に注意が必要と考えられる国・地域に発出される情報で、その国の最新の治安情勢やその他の危険要因を総合的に判断し、以下の4つのカテゴリーに分けて安全対策の目安をお知らせするものです。



詳しくは「[外務省海外安全ホームページ](#)」をご覧ください。

第2章 暮らしのための防犯対策

最近の治安情勢

FBI（米連邦捜査局）によると、10年前と比較した全米の犯罪発生件数は、減少傾向にあります。しかし、各州において特に都市部では多くの犯罪が発生しています。皆様がお住まいの地域の犯罪情勢を知ることは生活する上で重要なことです。

※ミシガン州・オハイオ州の治安情勢→「資料1～2」をご覧ください

2. 住居の防犯対策

海外で生活する上で住居の決定は重要な判断です。住居を決めるとき、生活の利便性、教育環境、職場等への交通環境などの他に「安全性」も条件のひとつに加えて下さい。信頼のおける不動産業者や地域の元居住者、企業が蓄積している情報等を参考にするなど可能な限り時間と費用をかけることが大切です。

一戸建て VS 集合住宅

それぞれ長所・短所があり、一概にどちらが良いとは言えません。例えば、一戸建てなら、自分の思い通りに設備を整えることができる反面、集合住宅の様に万一の場合に人の助けが求めにくいなどがあります。自分（家族）の生活スタイルに適した住居を選ぶことが大切です。

夜間・留守時の注意

- ◇玄関、通用口、窓、ガレージ等の施錠
- ◇夜間照明類の点灯
- ◇家の予備鍵を外に隠し置かない。
- ◇長期間留守にする際は不在と悟られない措置をとる（郵便の停止、照明のタイマー設定、芝刈り等の依頼など）。

防犯設備・対策

- ◇玄関等の外を照らす防犯灯の設置
- ◇室内外にセンサーや警報装置の設置
- ◇住居周辺の整理整頓・植木等の手入れ
- ◇鍵、補助錠、チェーンの設置
- ◇網戸・ガラス戸の強化
- ◇貴重品類の保管場所の見直し
- ◇非常食・飲料水等の非常用物資の常備

防犯チェック項目

- ◇侵入を容易にするはしごや台を不用意に置いていないか。
- ◇門扉、玄関のドアは常に施錠されているか。
- ◇防犯灯や警報装置は故障していないか。
- ◇家の周辺に不審な物は置かれていないか。
- ◇付近を不審者うろついたりや普段見かけない車が駐車しているなどの状況はないか。
- ◇現金・貴重品類は1カ所に保管したり、室内の目立つ場所に保管していないか。
- ◇停電、断水、その他災害や緊急事態に対する備えは十分か。

通勤・通学経路のチェックを！

住居を選ぶ際には通勤や通学に利用する経路の安全も重要です。通勤等に危険地帯を通る必要がある場所は避けるべきです。

3. 外出時の防犯対策

ミシガン州、オハイオ州ともに、都市部で犯罪が多発しています。都市部の繁華街（ダウンタウン）は、昼間はビジネスマンなどの人通りが多くありますが、深夜になると閑散として人気がなくなり、不用意に人通りの少ない場所にいると犯罪に遭遇する危険があります。特に一人での行動は大変危険です。犯罪者の多くは狙いやすい者の後をつけ、人気のない場所、逃げやすい場所で犯行に及びます。外出時は常に周囲への警戒心を持つことが重要です。

多額の現金を持ち歩かない

なるべくカード又は小切手を持ち、必要最低限の現金は分散して持つようにして下さい。財布は常に身につけ、特に人混みではひったくり・すり等の標的にならないように気をつけて下さい。人前でむやみに財布や現金を手にするのも危険です。

目立つ格好を避ける

場違いに派手な服装やアクセサリ類を付けたり、カメラ、地図、ガイドブックなどを持っていかにも旅行者という格好は避けて下さい。不慣れな場所では寄り道をせず目的地までの移動は素早く行うようにして下さい。

周囲への用心を怠らない

周りの状況に気を配り、犯罪者に隙を与えないことが大事です。歩きながらや夢中で携帯電話を使用（通話・メール等）したり、イヤホンを使用したりするのは危険です。また、公共交通機関や空港、ホテル、レストランなどでは自分の荷物から目を離さないようにして下さい。

カーナビ設定時の注意

カーナビゲーションの指示どおりに運転していて思わぬ危険地域を走行していたというケースが見られます。不慣れな土地での車での移動の際には目的地まで高速道路を優先して利用する設定にするなど注意して下さい。

4. 自動車に関する防犯対策と運転における注意事項

車社会であるアメリカでは、車両盗難や車上ねらい、カージャックなど自動車に関する犯罪も多発しています。FBIの公表資料によると、2013年のミシガン州における車両盗難件数は24,567件、オハイオ州では19,532件となっています（同じ年の日本全国における車両盗難件数は21,529件（警察庁統計））。

また、車の運転はアメリカでの生活において欠かせないとも言えますが、夏の集中豪雨による道路の冠水や冬の路面凍結など交通事故の危険は身の回りに多く存在します。各州によって法律は若干異なりますが、日本と同様にアメリカでも交通法規を守り、「安全運転」を心掛けることは言うまでもありません。

4. 自動車に関する防犯対策と運転における注意事項（続）

自動車盗・車上ねらいに対する防犯対策

- ◇車を離れるときは短時間でも必ず鍵をかける。給油時も必ず鍵を抜く。
- ◇管理人、警備員が配置され、照明設備が整っている駐車場を利用する。
- ◇利用者の多い駐車場を選び、大型車の間など死角となる駐車場所は避ける。
- ◇盗難防止装置付きの車を選ぶ。
- ◇車内の見える場所に高価なものやバッグ等の貴重品を置かない。
- ◇携帯型カーナビ等は車を離れる時には付属コード類とともに必ず取り外す。
- ◇バレーパーキング等で車を預ける際には、車の鍵だけを渡す。
- ◇被害に遭った時に判別できるように車に目印を付け、車台番号は控えておく。

カージャックに対する防犯対策

- ◇車への乗降時は周囲に不審者・不審物などがいないか確認する。
- ◇車に乗る際には素早く車内に入れるようにあらかじめ鍵を手に持ち、乗り込んだらすぐにドアをロックする。
- ◇見知らぬ人に停止を求められても絶対に応じない。
- ◇不慣れな道や人気のない裏路地は利用しない。
- ◇危険地域ではドアをロック、窓を閉め、中央寄りの車線を通行する。
- ◇信号待ちなどの際には、万が一の時に転回できるように前方の車との距離を保つ。
- ◇万が一被害に遭った場合には「生命の安全」を優先して行動する。

交通事故に遭ってしまった時は・・・

交通事故に遭ってしまった時は、意識して落ち着くことを心掛けて下さい。後は以下の順序で対処するべきです。

- ① 負傷者の救護～自分のケガの有無を確認後、けが人がいる場合は救護措置をとる。
- ② 事故車両の移動～破損が軽微など移動が可能であれば、他の交通の妨害にならない安全な場所へ車を移動する。
- ③ 救急隊・警察への通報～「911 (Emergency Response)」へ電話する。
- ④ 相手の情報のメモ～氏名、住所、連絡先、免許証番号、保険会社名、保険証番号、相手の車情報（車種、年式、色、ナンバー等）
- ⑤ 目撃者の情報のメモ～氏名、住所、連絡先など
- ⑥ 立会い警察官の情報のメモ～氏名、所属、バッジナンバー、連絡先など
- ⑦ 関係先への連絡～レッカー業者、加入している保険会社、家族、職場等への連絡

※参考

☆ミシガン州運転者マニュアル→「[What Every Driver Must Know](#)」(PDF 資料)

☆オハイオ州運転者マニュアル→「[Digest of Ohio Motor Vehicle Laws](#)」(PDF 資料)

5. 現地の風習・文化や法律の違いにご注意ください

海外生活において、日本と異なる風習や文化、または法律の違いがわからず、思いがけないトラブルに巻き込まれてしまうケースがあります。「法律を知らなかった。」では済まずに当局に身柄を拘束されてしまう場合もあります。生活する国の歴史、宗教、文化、習慣、政治、言語などを知っておくことは、トラブルを避ける上でも重要です。

子供に対する犯罪行為

子供への体罰や監護義務の放棄は、加害者の意図にかかわらず児童虐待（Child Abuse）とみなされ、親であっても逮捕、訴追される場合があります。

また、子供と一緒に入浴することは非常識な行為とみなされ、小学生（女子）が現地校で「お父さんとお風呂に入るのが楽しみ」と作文に書いたところ、警察の知るところとなり逮捕されたケースがあります。

家庭内暴力

家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）は、体罰と同様に犯罪行為とみなされ、当局は厳しく対応します。観光地において些細なことで夫婦げんかとなり、夫が妻を叩いたところ、周りの観光客が通報し、妻が警察官に「仲直りしたので大丈夫」と説明したが、夫が逮捕されたケースがあります。また、恋人間の暴力もドメスティック・バイオレンスとみなされます。

警察に対する態度

警察官（パトカー）が車に対して停止を求める場合、後方からライトを点滅させるのみで日本の様にサイレンやスピーカーによる停止指示は行いません。この場合は、速やかに安全な道路脇に停車して下さい。サイレン等がないので勘違いして走行を続けたところ、逃走したとみなされ逮捕されたケースがあります。また、警察官は相手が拳銃などの凶器を持っている前提で対応します。停止を求められた場合には、①警察官が来るまで車内でじっと待つ、②冷静に指示に従う、③手元を常に見せて動作をゆっくりとする、④指示が理解できない場合には理解できるまで質問するなど心掛け、抵抗や逃走と誤解される様な行動を避けることが重要です。

親と子の関係

米国では、親権を持つ親の一方が、他方の親の同意を得ずに子供の居所を移動させることは「実子誘拐罪」とみなされます。また、2014年4月1日から日本において「国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約（ハーグ条約）」が発効され、国境を越えた子の不法な連れ去り等があった場合にはこの条約が適用されます。

正当防衛に伴う武器の使用

ミシガン州、オハイオ州を含む多くの州において、自己が管理する場所（自宅、庭、個人事務所、場合によっては自動車など）に侵入した者に対しては、正当防衛に伴い拳銃など殺傷能力のある武器による相手への攻撃が法律上認められています（Castle Doctrine、Stand-your-grounds Law など）。

第3章 緊急事態が発生したときの対処方法

1. 緊急事態に対する基本的な考え方

緊急事態とは、大規模なテロや事件、または大規模な災害・事故が発生し、日常生活が大きく影響される事態を言います。緊急事態の発生を予測するのは困難ですが、危機管理に予防策は欠かせません。普段からの準備によって被害を最小限にとどめたり、被災後に元の生活に戻るまでの時間を短縮することは可能です。自分や家族の安全を確保する上でも普段からの物心両面の準備が大切です。

予想される緊急事態の例

- ◇政府機関や施設に対する攻撃や大規模集客施設等に対する攻撃といったテロ。
- ◇竜巻、ハリケーン、地震、大雨（雪）、自然火災などの災害。
- ◇大規模停電、工場火災、交通事故、航空機・船舶事故、危険物漏出事故などの事故。

普段から準備しておくべきこと

万が一の場合に備え、家族の避難先・集合場所や連絡方法を決めておいて下さい。非常用物資は持ち運びやすいようにまとめておいて下さい。その他に重要な連絡先リストなどを作成しておくべきです。
※詳しくは「緊急事態への準備」→「資料3」をご覧ください。

2. 情報収集の手段

緊急事態の内容により、発生後は通信網が停止したり、携帯電話などが通じ難くなるのが予想されます。日頃からの最新の情報収集に努めることが大切です。

テレビ・ラジオ・新聞等の公開情報

CNN、ABC、CBS、NBC、FOX、Weather Channel などの全国ネットテレビ局の他、TVジャパンではNHKの緊急番組が見ることができます。地元のラジオ局や新聞も情報源のひとつです。

インターネット

各地のニュースを検索することによって見られます。その他にアメリカ政府機関のホームページや外務省海外安全ホームページ、各地の大使館・総領事館ホームページからも緊急情報を発信しています。
※「[外務省海外安全ホームページ](#)」
※「[デトロイト総領事館ホームページ](#)」

3. 在留届の提出をお願いします

緊急事態の発生などの場合、総領事館が在留邦人の安全の確認や必要な支援を行う上で、在留届を通じて皆様の連絡先を知っておくことが必要です。日本の旅券法では海外に3ヶ月以上滞在する場合には在留届の提出が義務付けられています。

在留届の内容に変更があった場合（転居、帰国、家族構成や連絡先の変更など）には総領事館までお知らせ願います。

4. 「オンライン安否照会システム」について

オンライン安否照会システムとは、海外で大規模な災害・事件が発生して邦人が多数巻き込まれる可能性がある場合に、外務省の海外安全ホームページ上で安否照会を本邦及び海外の照会者が依頼することができるシステムです。照会者（被照会者の親族の方：二親等以内）は、受付けの際に与えられる受付番号とパスワードにより、その後いつでも、外務省や在外公館が実施する安否確認の結果や情報更新を同ホームページ上で確認することができます。詳しくは、海外安全ホームページの「オンライン安否照会システム～利用案内～」をご覧ください。

☆「[オンライン安否照会システム～利用案内～](#)」

（※お知らせ：2012年3月末日をもって、これまでご案内していた「全米・カナダ邦人安否確認システム」は終了しました。）

総領事館からのお知らせ（その②）

☆生活・安全に関するご相談、問い合わせ先

在デトロイト日本国総領事館ホームページに、皆様からの生活・安全に関するご相談、問い合わせのメール宛先（SAFETYINFO）をご案内しています。相談者の個人情報や相談内容に関するプライバシーの保護は厳重に管理されています。詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

【問い合わせ先】

在デトロイト日本国総領事館

400 Renaissance Center, Suite 1600

Detroit, MI 48243

TEL: 313-567-0120; FAX: 313-567-0274

総領事館HP: http://www.detroit.us.emb-japan.go.jp/index_j.htm

※生活・安全に関するご相談、問い合わせ先: [SAFETYINFO](#)

1. ミシガン州の治安情勢（出典：[2013年FBI犯罪統計資料](#)）

ミシガン州においては、凶悪犯罪のうち殺人等、性的暴行、加重暴行の発生率が全米平均よりも高く、その中でもデトロイト市の犯罪発生件数の多さが統計に顕著に表れています。その一方、財産犯罪は車両盗を除き、全米平均よりも低い発生率で推移しています。地域別に見ると、凶悪犯罪、財産犯罪が共に都市部において多く発生しています。

(1) 凶悪犯罪の発生状況

◇（表1）2013年凶悪犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

殺人・重傷害等	性的暴行	強盗	加重暴行	合計
631	6,593	10,105	27,194	44,523
(6.4)	(66.6)	(102.1)	(274.8)	(449.9)

（※ミシガン州人口9,895,622人）

◇（表2）全米における凶悪犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

殺人・重傷害等	性的暴行	強盗	加重暴行	合計
14,196	79,770	345,031	724,149	1,163,146
(4.5)	(25.2)	(109.1)	(229.1)	(367.9)

（※全米人口316,128,839人）

◇（表3）地域別凶悪犯罪発生件数

地域	殺人・重傷害等	性的暴行	強盗	加重暴行	合計
都市部	597	4,995	9,973	24,802	40,367
都市部郊外	9	546	77	849	1,481
都市部以外	25	1,052	55	1,543	2,675

(2) 財産犯罪の発生状況

◇（表4）2013年財産犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

侵入盗	窃盗	車両盗	合計
56,344	149,423	24,567	230,334
(569.4)	(1510.0)	(248.3)	(2327.6)

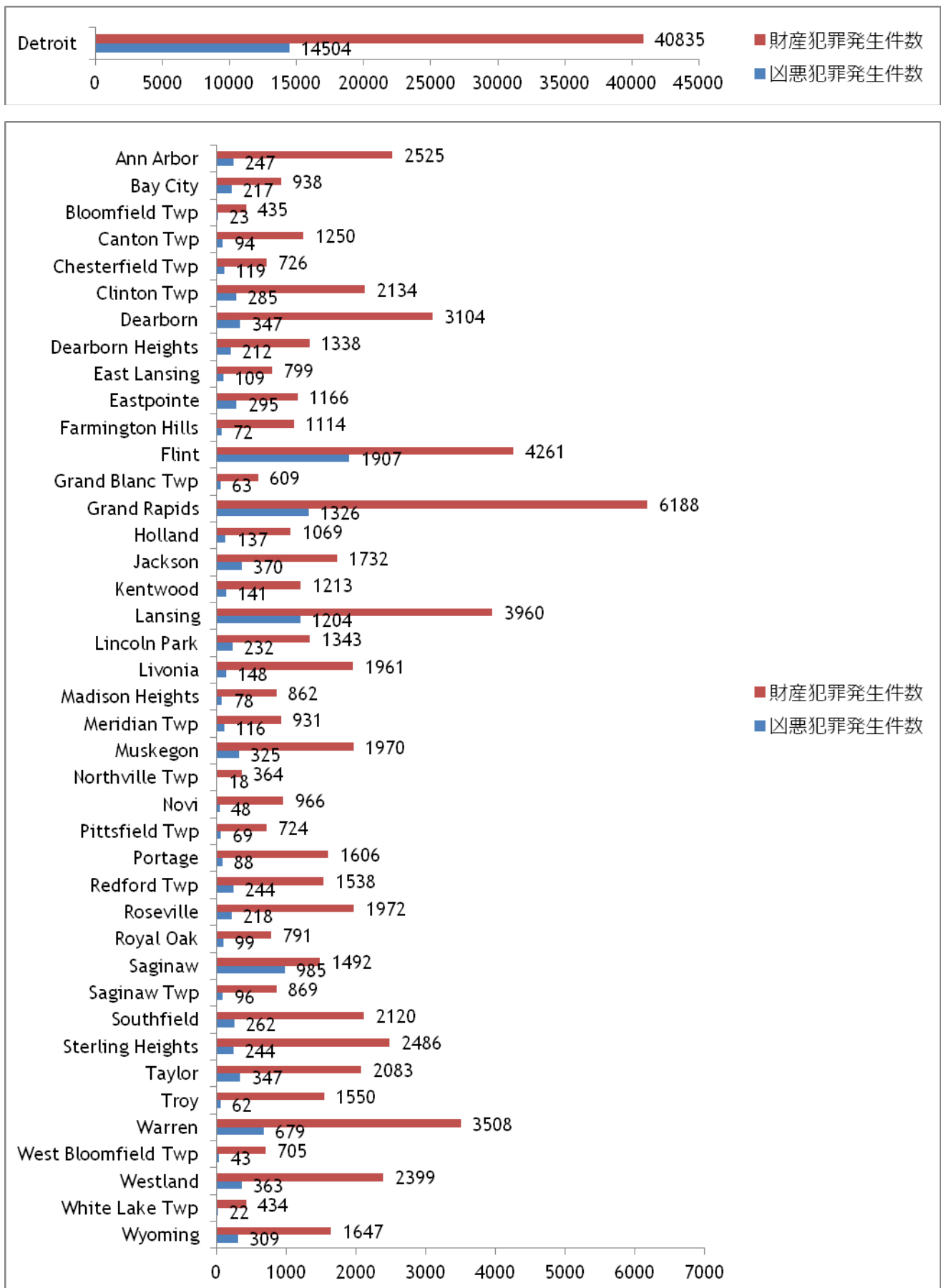
◇（表5）全米における財産犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

侵入盗	窃盗	車両盗	合計
1,928,465	6,004,453	699,594	8,632,512
(610.0)	(1899.4)	(221.3)	(2730.7)

◇（表6）地域別財産犯罪発生件数

地域	侵入盗	窃盗	車両盗	合計
都市部	49,238	127,412	23,530	200,180
都市部郊外	2,094	11,799	322	14,215
都市部以外	5,012	10,212	715	15,939

◇ (表7) ミシガン州の主な都市の年間犯罪発生件数 (人口3万人以上の都市対象、2013年統計)



2. オハイオ州の治安情勢（出典：[2013年FBI犯罪統計資料](#)）

オハイオ州において、凶悪犯罪のうち性的暴行及び強盗の発生率が全米平均よりも高く、財産犯罪は、侵入盗及び窃盗の発生率が全米平均よりも高い水準となっています。特にクリーブランド市、シンシナティ市での犯罪発生件数が多く、大都市における凶悪犯罪、財産犯罪の多発が目立ちます。

(1) 凶悪犯罪の発生状況

◇（表8）2013年凶悪犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

殺人・重傷害等	性的暴行	強盗	加重暴行	合計
455	4,041	14,368	14,257	33,121
(3.9)	(34.9)	(124.2)	(123.2)	(286.2)

（※オハイオ州人口11,570,808人）

◇（表9）全米における凶悪犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

殺人・重傷害等	性的暴行	強盗	加重暴行	合計
14,196	79,770	345,031	724,149	1,163,146
(4.5)	(25.2)	(109.1)	(229.1)	(367.9)

（※全米人口316,128,839人）

◇（表10）地域別凶悪犯罪発生件数

地域	殺人・重傷害等	性的暴行	強盗	加重暴行	合計
都市部	418	3,411	13,695	12,570	30,094
都市部郊外	11	339	531	848	1,729
都市部以外	26	291	142	839	1,298

(2) 財産犯罪の発生状況

◇（表11）2013年財産犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

侵入盗	窃盗	車両盗	合計
91,433	227,766	19,532	338,731
(790.2)	(1968.5)	(168.8)	(2927.5)

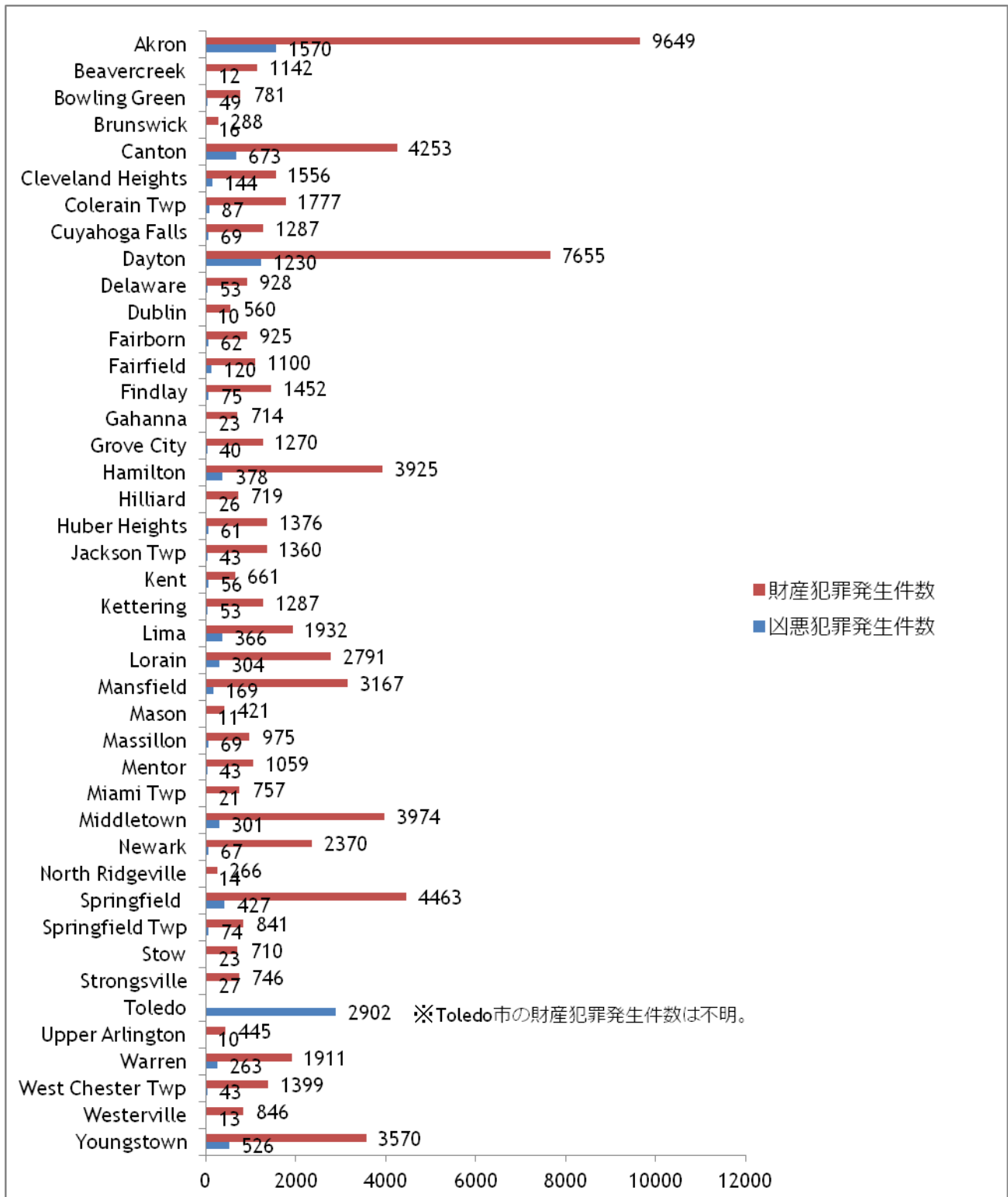
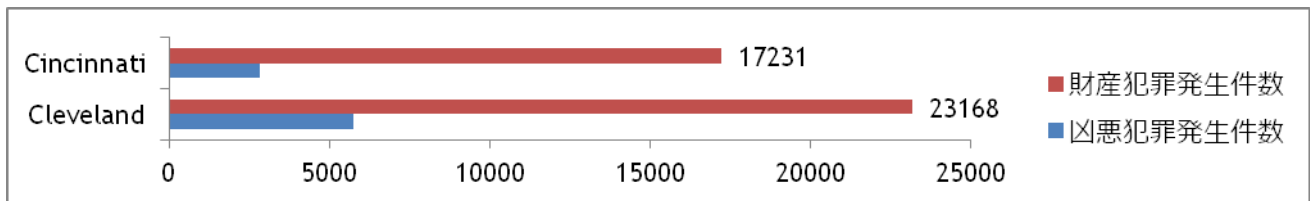
◇（表12）全米における財産犯罪発生件数／（ ）内は10万人あたりの発生率

侵入盗	窃盗	車両盗	合計
1,928,465	6,004,453	699,594	8,632,512
(610.0)	(1899.4)	(221.3)	(2730.7)

◇（表13）地域別財産犯罪発生件数

地域	侵入盗	窃盗	車両盗	合計
都市部	77,792	187,702	18,049	283,543
都市部郊外	7,417	27,651	698	35,766
都市部以外	6,224	12,413	785	19,422

◇ (表 1 4) オハイオ州の主な都市の年間犯罪発生件数 (人口 3 万人以上の都市対象、2 0 1 3 年統計)



【緊急事態への準備】

非常用物資（例）

※非常用物資は目安として約2週間分は備蓄しておきましょう。

- 飲料水（一人2～3リットル／日）
- 保存食（レトルト食品、缶詰、ビスケット類など）
- 衣類、洗面用具、履き物、毛布、寝具類
- マスク、救急セット、医薬品（特に持病等で常用しているもの）
- 懐中電灯、携帯ラジオ、携帯電話、無線機（電池類含む）
- 筆記用具、メモ用紙、地図、自宅・車の予備鍵
- マッチ、ライター、固形燃料
- 工具類、十徳ナイフ、調理器具・食器類など
- 雨衣、傘、帽子、サングラス、ビニールシート
- 貴重品類（身分証、パスポート、保険証、カード類、現金など）
- 緊急時の連絡先リスト（家族、親族、勤務先、病院、学校、
警察、総領事館など）
- 家族の医療情報（血液型、予防接種記録、アレルギーなど）
※家族の写真付きのものが望ましい
- 発電機、ガソリン等の燃料

車にも非常用物資！

万が一の場合に備え、車内にも必要な非常物資や防寒具・工具等を積んでおくことをおすすめします。

特に冬季に交通事故等に巻き込まれた場合には、救助が来るまで長時間車内に閉じ込められる可能性があります。

また、車のガソリンは常に満タンにしておく習慣をつけておきましょう。

非常時の連絡先（メモ）